

WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

5月18日(木) 第39号
第2832回例会
第2510地区

●本日のロータリーソング 我等の生業

Rotary



現代の山伝説を 札幌東ロータリークラブ

—森の灯・ニセコ放送劇団—

一般社団法人日本放送作家協会 北海道支部長 菊地 寛 氏



こんにちは。貴重なお時間をいただき、感謝を申し上げます。この機会に、ニセコ地域でドラマ制作・放送活動をしているラジオ放送劇団について申し上げたいと存じます。

常設のこうした地域放送劇団は、全国的にも稀です。地方創成のささやかな一灯であり、インターネットサイトによる国内外への同時放送ともあいまって、新たなラジオドラマ・シーンを描き出しています。ニセコの山々は、雪質の魅力に惹かれた外国人も多く訪れています。厳冬期の朝、谷あいには爆発音が響いて、急斜面の新雪が崩れます。コース外での遭難を防ぐための、人工表層雪崩です。この音をモチーフに、ニセコ放送劇団では今年の3月11日、「白い虹」というラジオドラマを地元のコミュニティFM局から放送しました。FM局と劇団の5周年記念の作品です。

この劇団を構想したのは2011年3月11日でした。この年、勤務していた大学を辞め、研究室をたたんでいる最中の揺れ。東北の大変な事態。被災地で懸命に生きる人々。啓示だったのでしょか。その時私は、住み暮らしている地域で新たな挑戦を、と脚本・演出の「灯」を掲げようと思い立ちました。コミュニティ放送局の新設計画と並行して企画書を創り、町の方々に声をかけますと手ごたえがあり、翌2012年にはシナリオコンクールで入賞した大学のゼミの教え子の脚本を得て、ニセコを舞台にした開局記念ドラマ「夜明けの神さま」の放送にこぎつけました。これを機に、メンバーが増え

本日のプログラム

新渡戸稲造と『武士道』

北海道大学 教授 総長補佐 全学教育部長 弐 和順 氏

ます。小学生から70代まで、ハーフの子、外国人もいます。札幌在住の放送作家も加わって、短編・連続モノの制作を始め、重ねて劇団員全員参加による年一本の長編「森の灯シリーズ」(作・演出、菊地寛)を立ち上げました。

第1話「スプリ、ホワイトアウト」では、雪崩で行方不明になったはずの学生が実は敗戦直後の樺太で生き別れとなった両親を捜しにレボ船ルートで旧ソ連に渡る。

第2話「響け、羊蹄太鼓」では、亡き太鼓名人の教え子たちが、仲間の一人の心臓手術の間中、羊蹄山頂やサハリンで太鼓を叩き続け、麻酔で眠る彼女の心に祈りの波動を送る。

第3話「森のコンチェルト」では、ニセコと紛争地ミンダナオ(比)の森をネットで結んで、ニセコゆかりの作家・有島武郎の小説の一節から、四季の相聞譜を。

第4話「白い虹」では、70年余り前の太平洋戦争が終結する直前の冬、特高に追われる徴兵忌避の青年を森で暮らす老人が一発の銃声で雪崩を誘発し逃亡させる。

古里は創造の泉であり、明日を拓く力でもあります。そんな想いを込めての現代の山伝説を、との地域のラジオドラマづくりです。その一端を紹介させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

マンスリー
メモ

家族(Family)

すべてのロータリークラブとロータリアンは諸活動を計画する際、ロータリークラブ会員の配偶者と家族のことを考慮に入れるべきである。これらの配偶者と家族は、ロータリークラブの奉仕目標に寄与することが出来る。(89-139)